

「たんとうチューリップまつり」で つながるさまざまな出会い



たんとうチューリップまつり
実行委員長

しもくら かずのり
霜倉 和典さん

但東町在住。「たんとうチューリップまつり」をはじめ、地域活性化のためさまざまな事業に携わる。1972年に就農し、現在は農業生産法人「あした」代表取締役のほか、資母まちづくり協議会会長、但東シルクロード観光協会会長などを務める。2018年黄綬褒章受章。



たんとうチューリップまつりには、1992年、球根を作る農家が集まり、地元の人に見てもらうために花畑を作ったことが始まりです。

チューリップで絵を描いたところ大きな話題となり、たくさんの方が詰め掛けました。大きなイベントに育ったまつりは今年で33年目を迎えます。

開園したのに急な寒波で期間中花が咲かなかつたり、早く咲きすぎたり、自然相手のトラブルがたくさんありました。続けてこられたのは、誰に言われたのでもなく、自分たち自身が始めたことだから。それと、お客さんからの「きれい」「楽しい」の言葉。子どもたちが会場で走り回っている姿を見ると、やってよかったと毎年思います。

イベントをすることで、周辺も生きてきます。地域の活性化につながり、また、但東の奥でやることで、豊岡や出石、そこまでの道のりにもぎわいます。

今年も4月上旬から開催します。スタッフ一同、いろいろな出会いを楽しみに、お待ちしております。
(15ページに関連記事を掲載)

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な話題—

外国にルーツを持つ子どもたちが
母語を使って伝統の童謡や劇などを披露



2月24日、豊岡稽古堂で「親子で学ぶ外国語・外国文化ワークショップ」の成果発表会を開催しました。このワークショップは、外国にルーツを持つ子どもが、親の母語(継承語)、母文化の大切さを学ぶため、5月から毎月行ってきたものです。最終回の今回は、中国、ベトナム、フィリピン、日本にルーツを持つ0歳から10歳までの子どもと親11組が母語を使って劇や童謡を発表し、会場からは大きな拍手が送られていました。

「コミュニティの未来フォーラムを開催
5つのコミュニティ組織が独自の取組みを発表



3月3日、「みんなで考えるコミュニティの未来フォーラム」を市民プラザで開催しました。約100人が参加し、島根大学・作野教授からの共同研究の成果報告や5つのコミュニティ組織が活動事例を発表しました。中筋地区では、地区内の医療・福祉施設と連携した講演会や健康教室を実施、中竹野地区では、幅広い世代の意見交換の場を創出するため「ふれあい居酒屋」を実施していることなどが発表され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

豊岡市
SNS



各施設・
事業の
SNS



※広報とよおかは豊岡市公式ホームページやスマホアプリのマチイロでも読むことができます。



環境に優しいペジタプリンキで印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

